

●はじめに

今年四月、私は岐阜県立森林文化アカデミーに副学長兼事務局長として赴任しました。それから十か月経過した現在、アカデミーの役割や森林・林業についての雑感を綴りたいと思います。

三月半ば、「森林文化アカデミー副学長として勤務していただきます。学長は涌井先生ですね。よろしくお願いします。」と副知事から人事異動の内示を受けました。  
(それ、どこにあるんや。林政部か。はじめてやな。)  
県職員を三十数年やっていれば、当然県の組織としての「森林文化アカデミー」は知っていました。実際に訪れたことはなく、林政部勤務も初めてでした。それから早速調べてみました。

●森林・林業の現状

- 森林面積 八十六万六千ha(全国五位)
- 森林率 八十二%(同二位)
- (なるほど。確かに岐阜は「木の国」やな。それで林業の状況はどうなつとるんやろ?)
- 私はその時点ではまだ商工政策課で、産業政策に十年ほど携わっており、売上高や従業者数といった指標で見ると、癖がついていたのでした。
- 林業産出額 八十八億円(同十四位)
- うち木材 五十二億円
- 林業従業者数 二千百十三人
- (えっ!なんやこれ。単位の見間違いかな。いやいや確かに八十八億や。そのうち木材が六割程度、なら残りはいったいなんなんや。陶磁器産業や木工産業でも二〜三億円はあるぞ。従事者数も二千人で。ソニー美濃加茂では二千五百人働いとつたぞ。)
- ちょうどソニー美濃加茂工場の閉鎖(三月三十一日)が迫っていたときで、地域経済に及ぼす影響を考え、雇用対策等をまとめている時期でした。

「森林空間」は「林業空間」ではない

岐阜県立森林文化アカデミー ● 桂川 淳

● 県予算

一方、発表されたばかりの県予算案を見ると次のとおりでした。

- 平成二十五年 一般会計予算額 七千四百六十二億円
- 商工労働部予算額 六百六億円
- 農政部予算額 二百二十五億円
- 林政部予算額 二百五十八億円
- (農政部より多いのか。それにしても八十八億円の産業に対して二百五十八億円の予算とは)
- 売上高、雇用者数等の地域経済情勢、それに伴う税収等を常に意識しながら政策を考えていた私にとって、これらの数字は直には腑に落ちるものではなく、理解不十分なまま四月を迎えました。

● 涌井新学長

そして、初仕事としての入学式を迎

え、そこで今年から就任された涌井史郎学長からの祝辞。

「森林空間は、林業空間ではありません。森林の役割、広義には自然と人の暮らしの相互関係、取り分け森林を維持増進する意味と意義は日増しに大きくなりつつあります。」

その時一気に視界が開けたような気がしました。「林政部」の仕事は「林業」のためだけにあるのではない。同時に「アカデミー」の役割も森林技術者の育成だけではない、森林空間の持つ多目的性・公益性を実現するために必要とされる人材を育成することが使命であると分かった瞬間でした。

